

令和元年9月10日

洞爺湖町議会令和元年9月会議  
教育長行政報告

番 号 件 名

- 1 寄附について
- 2 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録推薦候補選定について
- 3 公立高等学校配置計画の決定について
- 4 各種事務事業の取組状況について

## 1 寄附について

前会議から本会議までの間、次の方より寄附の申し出があり、ご厚志に添うようありがたく受納いたしました。

### (1) 金員の寄附（馬頭観世音碑の管理保存並びに供養祭経費として）

洞爺湖町入江190番地66

旧馬頭観世音碑保存協賛会 会長 岡田光弘氏

金額 400,000円

## 2 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録推薦候補選定について

令和元年7月30日、文化庁にて文化審議会世界文化遺産部会が開催され、今年度の国連教育科学文化機関（ユネスコ）に推薦する候補として、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が選定されました。

昨年、推薦候補として一度選定をいただきながら、世界自然遺産登録を目指す「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」との兼ね合いから国内推薦とはならなかった経緯はありますが、構成する関係自治体が引き続き連携しながら取り組んできただけに推薦候補選定の一報には関係者一同も感慨深いものがあります。

今回の結果を受け、世界遺産登録に向けましては審査機関である国際記念物遺跡会議（イコモス）の厳しい審査などへの対応など諸課題は少なくありません。

今後は、関係機関等と協働しながら世界遺産登録の実現を目指すとともに、当町において現在整備中の高砂貝塚の他、貝塚館の改修など周辺整備を進め、縄文文化という、約1万年もの長きにわたって営まれた、高度に発達・成熟した世界史上希有な先史時代の文化を町内外へ広く発信するなど全力で取り組んでまいります。

## 3 公立高等学校配置計画の決定について

9月3日、北海道教育委員会は令和2年度から令和4年度に係る公立高等学校配置計画と、令和5年度から令和8年度までの見通しを公表しました。

胆振西学区に関しては、令和3年度に伊達市内において、今後の中卒者数の状況や学校・学科の配置状況などを勘案し、一定の学校規模を維持し、幅広い教育課程の編成・実施を図る観点から、伊達高等学校と伊達緑丘高等学校を再編し、新設校を配置するとしています。募集学級数は6学級で伊達高等学校の校舎を活用し、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、普通科単位制を導入するとしています。

また、見通しに伴う学区の検討事項としては、令和5年度以降、令和8年度までに中卒者が186人減少することが見込まれることから、「4年間で3～4学級相当の調整が必要」、「欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、室蘭市内において定員調整の

検討が必要」となっています。

なお、虻田高等学校が含まれる地域連携特例校に関しては、「5月1日現在の第1学年の在籍者数が20人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備を留保」としています。この内容に沿い、1年生在籍者数13人の虻田高等学校について、令和4年度は再編整備留保となっています。

4 前会議から本会議までの各種事務事業の取組状況について、次のとおり報告します。

(1) 洞爺湖町立学校運営協議会（洞爺地区）委員の任命について

任期満了に伴い、6月28日付けをもって次の方々を任命いたしました。なお、7月10日に第1回会議を合同により同日開催し、会議では、それぞれの運営協議会の会長及び副会長の互選に続き、令和元年度の運営協議会活動予定など協議しました。

（とうや小学校 学校運営協議会） ◎会長 ○副会長 （敬称略）

氏名	委員の区分	新再別
◎橋本謙之介	保護者	新任
寺嶋政明	〃	新任
傳尚邦	〃	新任
山本みどり	地域住民	新任
毛利政則	学校運営に資する活動を行う者	新任
横山弘明	〃	新任
中井英和	対象学校の教職員	再任
岡垣健一	〃	新任
○肥吾信吾	学識経験者	再任
大西奈穂美	教育委員会が適当と認める者	再任

（洞爺中学校 学校運営協議会） ◎会長 ○副会長 （敬称略）

氏名	委員の区分	新再別
○村上友和	保護者	新任
佐藤志保	〃	新任
以西博	〃	新任
小山一典	地域住民	新任
矢野春美	地域住民	新任
◎大畑浩司	学校運営に資する活動を行う者	再任

安藤 裕	対象学校の教職員	新任
山城 邦和	対象学校の教職員	再任
毛利 納	学識経験者	再任
大西 奈穂美	教育委員会が適当と認める者	再任

(任期：令和元年6月28日～令和3年6月27日)

(2) 洞爺湖町学校給食運営委員会（虻田・洞爺）委員の補充について

洞爺湖町学校給食運営委員会（虻田給食センター・洞爺給食センター）委員の異動等に伴う欠員が生じたため、次の方々を委嘱いたしました。

（虻田給食センター）

（敬称略）

新委員氏名	所 属	旧委員氏名
小原 毅	虻田中学校長	横山 佳彦

（洞爺給食センター）

（敬称略）

新委員氏名	所 属	旧委員氏名
田湯 義浩	とうや小学校長	山下文人
橋本 謙之介	とうや小学校PTA会長	山崎 貞博
村上 友和	洞爺中学校PTA会長	佐々木 智基

(任期：令和元年6月21日～令和2年5月31日)

(3) 平成30年度洞爺湖町学校給食会計決算について

平成30年度 洞爺湖町学校給食（私）会計決算が、学校給食運営委員会において承認されたので報告します。

【虻田給食センター】

収入総額 23,108,555円

（うち給食費23,103,665円 収納率100%）

支出総額 23,102,752円

差引額 5,803円（次年度へ繰越）

【洞爺給食センター】

収入総額 6,180,689円

（うち給食費6,173,625円 収納率100%）

支出総額 6,172,581円

差引額 8,108円（次年度へ繰越）

(4) 第11回縄文まつりの開催について

史跡入江・高砂貝塚への関心と理解をより一層深めてもらおうと「第11回縄文まつり」が7月15日(月)、実行委員会の主催により入江貝塚公園を会場に開催されました。

会場では恒例の火起こし体験をはじめとした体験コーナーや槍投げ、麻縄早切りを競う縄文選手権などを実施し約200名の方々の来場をいただきました。

開催にあたりまして、アプタフレナイの会、入江4区、本町6区自治会、商工会婦人部、とうや湖レクリエーションクラブ、虻田郷土研究会、札幌国際大学など、多くの方々のご協力をいただきましたことに心より感謝を申し上げます。

今回の縄文まつりの開催は、北海道・北東北の縄文遺跡群を構成する入江・高砂貝塚のPRと共に世界遺産登録を目指す気運を高める効果も伴い、町民の皆さまに縄文文化に対する関心を更に高めていただける内容となりました。

(5) 洞爺湖町スポーツ推進委員の委嘱について

スポーツ推進委員の欠員に伴い、8月1日付けをもって次の方に委員を委嘱しました。

〈敬称略〉

氏名	備考
秦野孝慎	新任

(任期 令和元年8月1日～令和2年3月31日)

(6) プログラミング教室の開催について

8月6日、洞爺湖町役場防災研修ホールを会場に地域未来塾の夏休み特別企画として「プログラミング教室」を開講しました。この教室は、文部科学省が2020年の実施に向けて準備を進めている小学生に向けたプログラミング体験等を通して理解を深めるための教育の情報化推進の一環として実施したもので、未来塾の児童の他、学校教諭、地域の方々が参加してロボットやドローンの操縦を楽しみました。

会場では、特に洞爺湖町の入江・高砂貝塚を含む北海道・北東北の縄文遺跡群が国連教育科学文化機関(ユネスコ)に推薦する候補に決定されたことから構成する17遺跡の大きな地図上でドローンを操作し、着陸させた遺跡ごとの紹介や解説を行うなど、楽しみながら学習することで世界遺産登録への気運を高める取り組みとなりました。

なお、この教室開催にあたり東京並びに苫小牧の企業に多大なるご理解とご協力を賜り、学習の機会を提供できましたことに心より感謝を申し上げます。